

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 令和6年6月10日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4670105008
法人名	医療法人 博悠会
事業所名	グループホーム エデンの丘
所在地	鹿児島県鹿児島市坂元町161番地4 (電話) 099-247-5050
自己評価作成日	令和6年5月16日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.wam.go.jp/content/wamnet/pcpub/top/
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人自立支援センター福祉サービス評価機構
所在地	鹿児島県鹿児島市星ヶ峯四丁目2番6号
訪問調査日	令和6年5月29日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・季節の行事や誕生会、家族会を開催し、入居者様やそのご家族、職員が一体となって楽しく過ごせるように取り組んでいる。
 ・毎日午前午後に体操を実施する事で残存機能の維持に努めている。
 ・町内会に参加したり、職員が消防分団に在籍していたりする。町内の行事に参加することで積極的に地域の方々と交流し、地域の一員のとしての役割を果たすよう努めている。
 ・昨年よりエデンの丘グループでの夏祭りを再開。再開1回目は入居者と家族との関わりを重視し小規模での開催となった。感染症対策を行いながら次第に地域の方々も参加できる形にまで回復させたい。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

・当事業所は、同一敷地内のデイサービス・小規模多機能ホームと合同で委員会や会議を開催したり、イベントや避難訓練に取り組む等、日頃から協力関係を築いている。
 ・町内会に加入し、職員が地域行事の運営に参加協力したり、消防団員の職員もいる等、地域の一員として積極的に交流に取り組んでいる。
 ・コロナ等の感染予防のため、家族との面会は制限されているが外出・外泊は再開しており、家族との交流を支援し関係が途切れないように取り組んでいる。
 ・管理者は、3ユニット全体で協力しながら、ユニットの独自性も尊重した運営に取り組んでおり、eラーニングによる研修を実施し計画的に職員の質の向上・キャリアアップに取り組んでいる。また、休憩時間の確保や有給取得、年2回の個人面談実施など、働きやすい職場環境づくりに取り組んでいる。

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ．理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	理念をリビングに掲げ、毎日の朝礼時に唱和し、意識づけることで実践につなげている。	リビングに理念を掲示し、毎朝唱和して実践に繋げている。日々のケアの中で理念に沿ったケアになっているか振り返り、職員に確認を促している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	事業所として町内会に参加。地域の消防分団に所属している職員もあり、積極的に地域の行事に参加しながら交流を図っている。	町内会に加入し地域情報を把握しており、町の生涯学習発表会に出展・見物に出かけたり、演芸ボランティアを受け入れて地域と交流している。中学生の職場体験学習や高校生の実習受け入れも行っている。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている。	コロナ以降活動自粛しているが、地域の行事にて認知症に関する研修会等を定期的で開催していた。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	同敷地内の小規模多機能ホームと合同で開催。運営状況や活動報告を報告し、地域の情報や助言を頂きながら業務の改善に生かしている。	2ヶ月毎の会議を開催し、事業所の状況報告や意見交換を行っている。事業所の感染対策の取り組みについて委員の理解を得たり、委員からの地域情報や助言を活かして地域との交流を図る等、サービスの向上に取り組んでいる。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	必要に応じて市役所や長寿あんしん相談センターに電話や訪問して助言や指導を頂いている。	市の介護保険及び生活保護担当者とは、電話やメール、窓口に出向いての相談や報告等で連携を図っており、生活保護担当者の来訪もある。介護相談員の受け入れや市の集団指導・研修会を受ける等、協力関係を築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	同敷地内のデイサービス・小規模多機能ホームと合同で身体拘束廃止委員会を開催。多職種と意見を交換しながら職員へフィードバックしている。また、法人で年間計画を立て、eラーニングによる研修を実施している。	事業所で指針を作成し、委員会とは同一敷地内の事業所と合同で3ヶ月に1回開催している。研修は法人でeラーニングにより実施している。スピーチロックに気づいた時は管理者から注意を促している。1階の玄関の施錠はせず、外に出たい利用者に気づいたら職員から声をかけて一緒に散歩に出る等の対応をしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	同敷地内のデイサービス・小規模多機能ホームと合同で虐待防止委員会を実施。多職種と意見を交換しながら職員へフィードバックしている。また、法人で年間計画を立て、eラーニングによる研修を実施している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	法人で年間計画を立て、eラーニングによる研修を実施している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	運営規定や重要事項説明書、改定のお知らせと一緒に確認しながら説明を行い、都度疑問点があれば補足説明を行うことで御理解・納得頂けるよう努めている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	どんなことでも相談してもらえよう普段からの関わり方には気を付けている。 玄関に意見箱を設置する事で直接言いにくい事でも投稿できるようにしている。	職員から声をかけて本人の要望等を聞くようにしている。家族には面会時等に要望を聞き、その都度対応できるように努めている。家族の要望があれば外食や法事・外泊に出かけており、遠方からの家族には面会時間の配慮をしている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	朝礼時に意見を聞いたり、月例職員会議や正副主任会議の際に職員から上がった意見を検討し、運営に反映させている。	各ユニットの朝礼や会議時に職員の意見を聞いており、同一敷地内事業所の正副主任会議で職員の意見を検討し、備品購入等に反映させている。管理者が年2回個人面談を実施し、個別相談は管理者・主任が受けて対応している。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	代表者が法人の院長なので、訪問診療の際に現場の状況を実際に目にし、職員とも交流を図り、働きやすい環境づくりに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	eラーニングを用いて法人内で年間の研修計画を立て、定期的に状況を調査する事で確実な実施を促している。また、外部の研修への参加も積極的にサポートしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	鹿児島グループホーム協議会、介護支援専門員協議会等に入会し、積極的に研修に参加している。又、地域連携防災会議を通して、防災以外でも他施設との交流の場を設けている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の面談でご本人やご家族から生活歴や現在の状況などを確認して職員間で共有しておくことで、入居時に少しでも安心してもらえるようなサポートができるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面談の時点でご家族が困っていること、状況についてお聞きし、出来る範囲でサポートを行えるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前の面談でご本人やご家族から生活歴や現在の状況などを確認して優先事項を把握。必要や希望があれば他のサービスも提案するようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご入居者の何気ない言動に耳を傾け、共感しサポートすることで、安心して過ごせるような関係が気付けるよう努めている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	定期的にご家族へ現状報告することでご家族と情報を共有し、協力してご本人を支える関係が築けるよう努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	感染対策を十分に行いながらではあるが、面会を積極的に受け入れたり、携帯電話の所持を許可したり、なじみの関係が途切れないように努めている。	面会や外出・外泊・携帯電話による家族との交流を支援しており、事業所でもラインでの写真送付に取り組んだり近況報告を面会時や電話で行い、家族との関係が途切れないように努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクリエーションやくつろぎの時間を通して関係が築けるように職員が中に入り、入居者同士が関係を築けるように努めている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後も必要とされるご入居者やご家族とは相談などに応じたり経過を確認したいすることで継続的な関わりが持てるように努めている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日頃の何気ない言動の中から思いを察したり、定期的に話を伺うことで以降の把握に努めている。ご家族の意向と相違がある場合は話し合いの場を持つようにしている。	朝のあいさつで利用者個々に声をかけ、顔色や表情で体調・気分などを判断したり、日常会話で思いを把握できるように努めている。困難な場合は、家族の情報や職員の関わりの中で推測している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の面談でご本人やご家族から生活歴や現在の状況などを確認したり、入居後の会話の中で確認できたことを書留め、職員間で共有するように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日午前午後のバイタルを記録したり、経過記録等を通してご入居者の生活リズムを記録したりすることで現状の把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアプランに沿って3カ月に1回モニタリングを行い、6ヶ月に1回はケアプランの更新前のカンファレンスを行っている。また、朝夕の申し送りをしっかり行う事で情報や意見を交換し、ケアプランの作成に生かしている。	電話や面会時に家族の希望を聞き、日常業務の中で出された職員の意見を入れて介護計画を作成している。3ヶ月毎にモニタリングを実施し、見直しは6ヶ月毎及び状況変化時に行い、現状に合った介護計画である。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や実施したケアを経過記録に残すことで職員間で情報共有し、重要なことは職員会議を開催してケアやケアプランの見直しに努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々生じるニーズに対して専門職へ相談したり、その情報を職員と共有したりして出来る限りの対応が行えるよう努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	有事の際に備え、地域の方や隣接する福祉施設、金融機関などとの協力支援体制を構築している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人・ご家族と話し合い、かかりつけ医を継続したり、情報をやり取りしながら訪問診療が可能な病院にかかりつけ医を変更したりと適切な医療が受けられるよう支援している。	契約時に希望を確認しかかりつけ医の継続を支援している。3ヶ所の医療機関による月2回の訪問診療を利用している。事業所の看護有資格者による健康管理や24時間対応のかかりつけ医などで、必要な医療が受けられるよう支援している。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員は定期的に全ユニットのご入居者の体調を把握。介護職員はご入居者の異変に気付いた時はすぐに看護職員に報告・相談し、適切な対応が出来るような体制を取っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には施設での生活状況が分かるよう情報提供書をお渡しし、分からない所は電話で問い合わせるようになっている。また、ご家族や連携室と定期的にやり取りし、出来るだけ早く退院出来るよう努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化や看取りについての指針を説明し、急変時にどこまでの医療的な対応を希望するか意向を確認している。また、定期的に意向を取り直し主治医との情報共有を図っている。	契約時に重度化等の場合の対応について指針で説明し、同意書をもらっている。入居後に状況に応じて家族の意向を再確認している。重度化の場合は医師から家族に病状説明し、意向を確認している。家族の意向に沿って支援に取り組んでおり、家族や法人の看護師の協力も得て看取り介護も行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急対応マニュアルを作成し掲示している。また、本年度より基礎救急救命講習会を再開し、心肺蘇生法、AEDの使い方などを改めて履修する予定を立てている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災訓練を年2回実施。夜間想定 の避難訓練も行っている。事業 継続計画書を作成し、災害時の 対応についても職員へ周知して いる。地域の消防分団に入団し ている職員もあり、近隣の住民 や協力施設の方との応援体制が 取れるよう図っている。	同一敷地内の3事業所合同で昼夜 想定 の避難訓練を年2回実施し、 消防署の立ち合いを1回受けてい る。消防団員の職員もあり地域 との協力体制を築いている。非 常用の備蓄は、配食サービス業 者のレトルトパウチ100食分やカ セットコンロ、発電機を準備し ている。水は期限切れのため購 入予定である。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご入居者の人格を傷つけないような声掛けをするよう気を配ったり、排泄に関する会話を他入居者の前で行わないよう配慮したり、誇りやプライバシーを損ねないよう努めている。	eラーニングで研修し、個々に応じた声掛けに努めている。さん付けでの呼びかけや入室時のノック、希望での同性介助を実施しており、排泄・入浴介助時は羞恥心に配慮した対応をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	こちらから行動を指示するのではなく、あらゆる場面でどうしたいか本人の希望を必ず確認するように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ある程度時間に沿った声掛けは行うが、本人の意見を尊重して一人で過ごしていただいたり、時間や日をずしたりして本人の希望に添えるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	季節感のない格好にはならないよう気を配りながら、着替えの準備を一緒にしたり、定期的に訪問理美容をお願いしたりしている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理業者へ依頼していたが、4月から冷凍食品を併用しながら自分達で作るようになって美味しくなったとの声が増えた。また、台所仕事を一緒に行うことで、役割をもって生活が送れるよう努めている。	朝食以外は配食サービスを利用し、ミキサー食等に加工して提供しており、利用者もテーブルやお盆拭きをしている。誕生日のケーキやお菓子レクレーションを楽しんでおり、今後は行事食を手作りする予定である。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	その人の嚥下状態にあった食事形態で提供するように心がけている。また、食事や水分の摂取量を記録することで栄養や水分が不足しないよう努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、必ず口腔ケアの声かけを行い、介助が必要な方はスポンジ等必要な道具を使用してケアを行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄の時間と量を記録し、パターンの把握に努めている。一人一人に合わせたタイミングでの声掛けを行い、気持ちよくトイレで排泄出来るよう支援している。	排泄パターンに合わせて声掛けし日中はトイレでの排泄を基本に支援しており、排泄の失敗が減少した事例がある。適切な排泄用品を選択しており、夜間のみポータブルトイレやオムツを使用する利用者もある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	十分な水分や食物繊維が摂取できるよう心がけている。それでも自然排便が難しい方は主治医に相談し、軟化剤を処方して貰っている。また、職員に本年度のpooマスター研修を受けてもらい、排便についての新たな知識を現場で生かせるように取り組んでいる。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	職員配置の関係もあり、一応入浴の日時を予定している。どうしても拒否が強い時や、本人様の希望がある場合は予定を変更して入浴して頂けるような柔軟な対応を心がけている。	入浴は週2回午前中を基本に支援しているが、希望等で柔軟に対応している。浴槽使用が大部分であり、状況により清拭や2人介助を実施し、同性介助にも対応している。嫌がる場合、声掛けを工夫したり日時を変えて入ってもらっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人一人のペースに合わせて休んでもらいながら、朝夕のレクや体操等の活動を通して昼夜逆転を予防し、気持ちよく眠れるように支援している。どうしても頻尿や不眠等がある方は主治医に相談して内服での支援も図っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書を確認した後は個人ファイルに綴り、すぐ再確認できるようにしている。新しい薬が処方された時は症状の変化がないか観察・記録を徹底し、服薬時に名前・日付・朝昼夕を読み上げ確認し、誤薬がないように努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物たたみやお盆拭き、台拭き等の手伝いやレク活動を通じて、一人一人の出来ることに役割を持ってもらえるよう努めている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	天気の良い日はホームの周辺を散策したり、季節ごとの行事で花見に出かけたりしている。また、ご家族との外出も再開し、外出の機会が制限されないよう努めている。	天候の良い時は、庭での外気浴や散歩に出かけている。年間計画を立てて、初詣や花見のドライブに出かけている。家族との外出を再開しており、墓参りや自宅訪問・外食などに出かける利用者もある。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族へ説明した上で、本人様が誤って紛失してしまっても差し支えない範囲での所持をお願いしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	ご家族・馴染の関係との電話・手紙のやり取りがスムーズに行えるよう支援している。携帯電話の持ち込みも制限なく許可している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間が分かりやすいように表札を設置したり、カーテンや照明・エアコン等を利用して強い刺激がない環境を作る事に努めている。また、台所からの調理の音やいい匂いで生活感を、壁飾りや装飾で季節感を感じられるよう工夫している。	リビングはエアコンや加湿器で適度な室内環境に調節し、窓を開けての換気やテーブルのパーテーション設置で感染予防対策を行っている。壁に季節の作品を飾ったり、廊下には行事などの写真も貼っている。居心地よく過ごせるよう席替えをしたり、ソファの配置を工夫している。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ご自身の席やソファなど、一人一人がお好きな場所で過ごせるようにしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベッドやタンスは備え付けの物をご利用いただけるが、ご本人やご家族の希望があればTVや馴染みの家具・お布団等馴染みの物を持ち込んで使っていただけるようにしている。 また、ご家族の写真を飾る等模様替えも安全を配慮した上で自由にしている。	居室には、ベッドやタンス・洗面台・エアコンが備えてあり、寝具はリースを利用している。本人は、自宅で使い慣れた毛布などの寝具やテレビ・仏壇・洋服掛け・衣装ケース・雑誌・本・写真等を持参し、馴染みの物の中で安心して過ごせるようにしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各設備・居室が判り易いように表札等を掲示。廊下や浴室に手すりを設置し、動線を塞がない安全な環境づくりに努めている。 また、必要に応じてベッド柵をL字柵に変更する等出来るだけ自立した生活が送れるよう工夫している。		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1 ほぼ全ての利用者の
			2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ全ての家族と
		○	2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
		○	3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1 大いに増えている
			2 少しずつ増えている
		○	3 あまり増えていない
			4 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)		1 ほぼ全ての職員が
		○	2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての家族等が
		○	2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない